



水質日本一の復活を目指す

上戸浜でクリーンアップ作戦実施



上戸浜のごみを拾う参加者ら

町と猪苗代湖環境保全推進連絡会が主催する猪苗代湖岸クリーンアップ作戦は8月7日、上戸浜で開かれ、町民約50人が湖岸のごみ拾いなどに取り組みました。清掃開始を前に、前後町長が「日頃からの水質改善への取り組みや本日の清掃活動への参加に感謝しています」とあいさつ。その後、参加者らは約1キロにわたり湖岸を歩きながらごみを拾いました。

終了後には、県生活環境部水・大気環境課の清野弘主任主査による座学も開かれ、参加者らは猪苗代湖の水質の状況などについて学び、環境保全への誓いを新たにしました。

職員が環境整備に取り組む

町立病院でクールビズ、5S活動



病院前庭園の草むしりをする職員ら

町立猪苗代病院の環境クリーンアップデーは8月10日、同院で実施されました。この日は、職員らがさらなる節電を目指してクールビズで患者に対応。ティールームを開放し、お茶やコーヒーなどを振る舞ったほか、患者にとって心地良い受診・療養環境を整えるミニ5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)への更なる取り組みとして、敷地内の清掃や草むしりなどを実施しました。

※町立病院では10月3日から耳鼻咽喉科の診療を開始します。診療日は毎週月曜日、診療時間は午前8時30分～正午です。白土正人医師が、一般的な診療(検査・診断・治療)をします。

英霊800余柱の冥福を祈る

戦没者追悼式と慰霊祭が催される



献花をして英霊の冥福を祈る前後町長

町戦没者追悼式は8月5日、町体験交流館学びいなどで執り行われました。式には遺族連合会会員や来賓など約190人が出席、国歌斉唱の後、黙とうをささげ、先の大戦で犠牲になった800余柱の冥福を祈りました。前後町長が「尊い犠牲の上に築かれた現在の平和と繁栄を維持し、安心して暮らせる社会を作るため努力を続けていく」と式辞、山口靖明会津保健福祉事務所長、鈴木武喜議長が追悼の言葉を述べた後、出席者らが献花をし、英霊を慰めました。

追悼式に続き、町遺族連合会主催の慰霊祭が開催されました。

町のスポーツ振興の一助に

楽天イーグルス猪苗代球場が誕生



町、球団関係者や生徒らが出席した式典の様子

(株)楽天野球団が、地域との交流や野球の普及促進を図る東北楽天イーグルスフィールドサポートプログラム。同プログラムによる町運動公園野球場の愛称命名式・看板除幕式は8月6日、同球場で挙行され、前後町長と池田敦司楽天球団取締役副社長のサインボール交換やあいさつなどの後、球場の看板が披露されました。式典に続いて開催された野球塾には、猪苗代中、磐梯中や福島市の清水スポ少などから約100人が参加。同球団の今関勝ジュニアヘッドコーチや中濱裕之ジュニアコーチ(郡山市出身)らから熱心な指導を受けました。

風評被害をぶっ飛ばせ！！

町内6スキー場が強力タッグ結成



大会の成功に向け、意気込みを見せる関係者ら

「ゲレンデ逆走マラソン磐梯高原6スキー場CUP」の第1回運営委員会が8月18日、ホテルリステル猪苗代で開かれました。

町内の各スキー場でマラソンやウインタートライアスロンなどを実施するこの大会は、冬のスキーシーズンを前に安全・安心な猪苗代をアピールしようと町内の6スキー場が連携したものです。

10キロのレースでは、特別戦を除く全7戦でポイントを争い、最高得点を目指します。日程、競技内容や申し込みなど、詳しくはホームページをご覧になるか、電話で問い合わせてください。

実行委員会事務局 ☎(67)4110 <http://www.gambaruzo.jp>

人口表示板がリニューアル

会津信用金庫が人口表示板を寄贈



前後町長に表示板を手渡す石井支店長(右)

会津信用金庫(本店・会津若松市、星幹夫理事長)の人口表示板贈呈式は8月9日、町役場で開かれ、同信金猪苗代支店の石井通雄支店長が前後町長に表示板を手渡しました。

町役場1階に設置されていた人口表示板は、もともと同信金から寄贈されたものでしたが、老朽化が進んだことに加え、同信金のロゴマークも古いままになっていました。そのため、同信金からリニューアルの申し出があったものです。

寄贈された人口表示板の大きさは縦60センチ、横45センチ。町役場1階の会計室横に設置されています。



福島の子どもたちに元気を

アンパンマンらがコンサート開催



人気のキャラクターが大集合したショーの様子

「それいけ! アンパンマン 元気 100 倍コンサート」は8月24日、亀ヶ城公園で開かれ、町内外から約1400人の親子連れが会場を訪れました。アンパンマンとその仲間たちは、子どもたちと一緒に歌って踊り、その心に元気や勇気を届けました。

コンサート終了後にはアンパンマンたちとの握手会も開かれ、子どもたちは目の前に現れたヒーローに大興奮の様子でした。

このコンサートは、主催のアンパンマンデジタルLLP、(株)フレイベル館、(株)トムス・エンタテインメント、日本テレビ放送網(株)や(株)福島中央テレビなどの好意で開催されたものです。

(C) やなせたかし/フレイベル館・TMS・NTV (C) APDLLP

夜空を焦がした希望の花火

本町で4年ぶりの花火大会を開催



色とりどりの希望の光が会場を包みました

東日本大震災復興イベントいなわしろ花火大会は8月13日、町運動公園で開かれ、「希望」をテーマに尺玉やスターメインなど、約2000発の花火が夜空を鮮やかに彩りました。

開会式では前後町長が「避難している人たち、福島の子どもたちに希望の花火を見せたい」とあいさつ。続いて渡部恒三衆議院議員、溝畑宏観光庁長官、内堀雅雄副知事らが祝辞を述べました。

磐梯まつり花火大会の取り止めから4年。町内で久しぶりに開催された花火大会を見物しようと町内外から多くの観客が訪れ、夏の夜を楽しみました。

冬の本番に向け心を一つに

SOの聖火が本町を出発しました



聖火を手に町内を駆け抜けたトーチラン

2012 第5回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・福島のPRを兼ねたトーチランが8月27日、本町を出発しました。採火式が開催された磐崎神社から運ばれた聖火は、土津神社で分火され全国へと出発。2月10日の本大会まで日本全国を回り、たくさんの人の思いを集めて再びこの地に戻ります。

本町では、聖火を手にした一行が土津神社からスタート。町内を回り、ゴールのカメリーナまでを駆け抜けました。カメリーナでは、聖火を前に参加者全員が心を一つにし、大会の成功を誓い合いました。

鉄人たちが己の限界に挑む

猪苗代の雄大な自然を舞台に激走



441人の鉄人たちが町内を駆け抜けました

第13回うつくしまトライアスロン in あいづは8月21日、天神浜をスタート、ゴールにするスイム(1.5^{キロ})、バイク(40^{キロ})、ラン(10^{キロ})の計51.5^{キロ}で開催されました。

13回目を迎えた同大会ですが、町内だけで競技が実施されるのは今回が初めて。スターターを務めた前後町長は「最後までレースを諦めず頑張ってください」と選手たちを激励しました。

大震災の復興支援イベントとして開催された今大会。雨に負けず、全力を尽くすたくましい鉄人たちの姿は、復興への無言のエールのように感じられました。

今こそ、人の心に豊かさを

復興に向け、チャリティー舞踊会



みほ乃会会員の舞踊「関東春雨傘」

花柳流みほ乃会(花柳寿美衡会主)主催のチャリティー舞踊会は8月28日、学びいなどで開催されました。第一部は花柳流みほ乃会の舞踊会、第二部は共催の詩吟神聖流聖涼支部が「詩吟、義経」を披露。第三部では福島元気復興企画として、民謡堀内流一藤会、伊藤はじめさんが福島民謡メドレーなどを披露しました。

伝統文化の担い手が一堂に会し、発表を通して震災後の復興に必要な心の豊かさや元気を届けたこのイベント。踊り手や唄い手の思いが込められた発表は、会場を埋め尽くした500人以上の観客を魅了しました。

東軍殉難者の御霊安らかに

戊辰戦争の激戦地母成峠で慰霊祭



母成慰霊碑前で執り行われた慰霊祭の様子

戊辰戦争の激戦地、母成峠の戦いで戦死した東軍殉難者の慰霊祭は8月21日、母成慰霊碑前で執り行われ、母成弔霊義会会員や殉難者の子孫など約30人が出席しました。

仏事に後、母成弔霊義会の橋本彦一会長が祭文を読み上げ、前後町長が「郷土を守るため、身命を賭けて戦い、不運にも尊い命を捧げた英霊を偲び、心からご冥福をお祈りします」と弔辞を述べました。戦死者の霊を慰めるため毎年奉納される吾妻小学校児童による白虎隊剣舞は、雨のため中止になりました。

この慰霊祭は、母成弔霊義会の主催で毎年開かれています。